



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

UAE : GCC 治安機関による臨時会合の開催 (10月21日付「アル・ハリージュ」紙)

1. 某高官筋が「アル・ハリージュ」紙に語ったところによると、GCC 諸国の国内治安機関担当者等が地域における治安上の問題を協議するために臨時会合を開催し、微妙な三つの問題を協議した。同会合は、仮にその存在がメディアに漏れたとしても、公表しないことが義務付けられていた。
2. 第一の問題は、ある地域の国（注：イランを指すと思われる）の諜報機関により、宗派的・イデオロギー的にその某国に属する湾岸諸国国民に秘密キャンプで訓練が施され、地域における武力紛争発生時にテロ活動を行うためにそれぞれの母国に配属されていることを伝える情報が複数の情報機関から寄せられて蓄積されているが、これらの情報の処理方法である。この筋は、「これらの休眠細胞は、(GCC 諸国の治安機関の) 完全な支配下にあり、適切な時に適当な法的措置により対処されるだろう」と述べた。
3. 第二の問題は、英軍のイラク南部からの撤退が治安情勢に与える影響である。同筋は、現時点で撤退地域に近接しているクウェイトが最も害を受ける国となると述べると共に、状況をコントロールし、安全を確保するための新しいシステムが稼動し、国境の安全確保のためにランダムな措置及び技術的な常時国境監視を行い、想定される如何なる危険に対しても迅速に干渉が必要な緊急時か否かを判断すると述べた。
4. 第三の問題は、イランの核問題の進展もしくはイラクにおける突然の治安状況の崩壊の発生を背景として、地域で武力紛争が発生した時の治安対処策に関するオプションである。地域における武力紛争の発生時、大量のイラク人が近隣諸国へ向かうというオプションとテロリストが入り込む治安上の抜け穴が生まれる可能性があるというオプションの二つが含まれている。